

「BS 放送への新規参入申請者」 「新 4K8K 放送視聴可能テレビ・チューナー」 「ウォークマン 40 周年特別展示会」 「Interop Tokyo 2019」

神谷 直亮

「BS 放送への新規参入申請者」

最近の心強いニュースとして挙げられるのは、総務省が発表した「9 社 BS 放送に参入申請」だ。既存の事業者からの周波数返上を前提に、5 月 13 日まで公募を受け付けていたものである。今回、認定を希望している事業者として公表されたのは下記の通りだが、吉本興業、木下グループ、ジャパネットなどが名乗りを上げているのが興味深い。

申請者（主要株主）

- ・ SMC ブロードキャスティング（ストリームメディア）
 - ・ カワイアン TV（吉本興業）
 - ・ キノテレビジョン（ギギークピクチャーズ、木下グループ）
 - ・ ジャパネットメディアクリエーション（ジャパネット）
 - ・ 日本映画放送（フジテレビ、ソニー、東宝）
 - ・ BS 松竹東急（松竹ブロードキャスティング、東急電鉄）
 - ・ 4GTV（イヴォルバー、木下グループ）
 - ・ プラットイーズ衛星放送（プラットイーズ）
 - ・ ブロードキャスト・サテライト・ディズニー（ウォルト・ディズニー・ジャパン）
- しかし、いずれも BS 右旋電波を希望し

ており、肝心の左旋の申請は見当たらない。今回、認定を受けられる新規事業者は 3 社と予想されるので、残りの 6 事業者による今後の対応に期待したい。気になる放送開始だが、2000 年の秋になりそうだ。

「新 4K8K 放送視聴可能テレビ・チューナー」

もう一つの良いニュースは、新 4K8K 衛星放送視聴可能テレビ、チューナーの累計台数が、5 月末に 100 万台を超えた。放送サービス高度化推進協会の発表によれば、内訳は、新 4K 放送チューナー内蔵テレビが 56 万台、外付けチューナーが 20 万 3000 台、新チューナー内蔵 CATV セットトップボックスが 30 万 2000 台である。新 4K 放送チューナー内蔵テレビについては、パナソニック、東芝、シャープ、三菱電機、ピクセラ、ハイセンス、LG に加えて、6 月からソニーが発売を開始して主流メーカーが出揃う。また、106 万台に含まれていない新 4K チューナー内蔵録画機の売れ行きも好調のようである。今後、6 月、7 月の実績に期待がかかる。

「ウォークマン 40 周年特別展示会」

7 月 1 日にソニーが「ウォークマン 40 周年特別展示会」をオープンした。音楽を

外に持ち出す生活のきっかけとなったプレーヤー「ウォークマン」をソニーが発売してから 7 月 1 日で 40 年が経つという。ソニーは、これを記念して「銀座ソニーパーク」で、特別展「Walkman in the Park」を開催している（開催期間、7 月 1 日～9 月 1 日）。目印は、晴海通りに面した 1 階入り口に設置された 1983 年発売のスポーツ・ウォークマン「WM-F5」の巨大なモックアップである。覗いて見たら、館内は地下 1 階、2 階が「My Story, My Walkman」と「Custom Walkman」、地下 3 階が「Wanted! Walkman」、地下 4 階が「Walkman Wall」という構成で結構力が入っていた。「My Story, My Walkman」のフロアには、1979 年に発売した初号機「TPS-L2」から始めて、2018 年から売りに出している最新のウォークマン「NW-A50」まで、38 機種が展示されており見事であった。また、愛用していた著名人のそれぞれの機種の思い出話が添えられており、実際に視聴しながら楽しめるのが良い。「Walkman Wall」のコーナーには、幅 6 メートルのウォールに歴代ウォークマン 40 機種が整然と飾られており迫力満点であった。1 機種ずつデザインの変化やシステムの進展ぶりを知ることができるが貴重な展示でもある。

ソニーのウォークマン 40 周年を上回る 50 周年を祝ったのは、「月面着陸記念日」だ。1969 年 7 月 20 日に宇宙船アポロ 11 号が初の月面着陸を果たしてから、今年で 50 年になる。ニール・アームストロング船長とバズ・オールドリン着陸船操縦士が月面に残した足跡は、どのようになっているのだろう。これを記念して、BBC ワールドニュース、CNNJ、ディスカバリーチャンネルなどが「月面着陸 50 周年番組」を放送した。

この節目の年に当たり、アメリカは再度月面着陸を目指す「アルテミス計画」を練



写真 1 「銀座ソニーパーク」の 1 階入り口には、1983 年発売のスポーツ・ウォークマン「WM-F5」のモックアップが飾られていた。

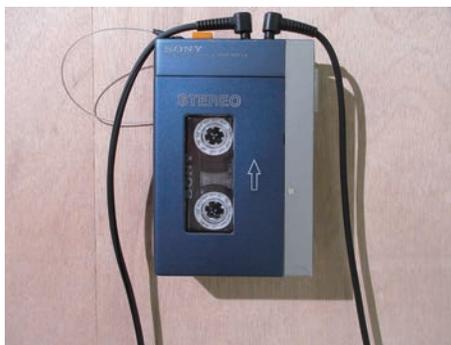


写真 2 来場者の関心は、やはり 1979 年発売のウォークマン初号機「TPS-L2」に集まっていた。



写真3 奈良テレビは、ソニーのIPライブ伝送技術を採用したライブ・プロダクション中継車を展示して注目を集めた。



写真4 IPライブ・プロダクション中継車のスイッチャー卓には、「XVS-6000」が設置されていた。



写真5 BOE ジャパンは、8Kライブ映像配信システムのデモを実施して来場者の注目を集めた。

っている。アポロ計画との大きな違いは、月の周回軌道に「ゲートウェイ」と呼ぶステーションを建設し、宇宙飛行士はゲートウェイで月着陸船に乗り換えて月に向かう。このゲートウェイ構想にカナダがすでに参加を表明しており、日本も今年中に決断する見通しである。

日本は、JAXA（宇宙航空研究開発機構）が2007年に月探査機「かぐや」を打ち上げて、月の地形観測に貢献している。さらに、2021年に小型月着陸実証機「SLIM (Small Lander for Investigating Moon)」を打ち上げる。

一方、日本の民間企業2社（PDエアロスペースとスペースウォーカー）による宇宙旅行ビジネスも現実味を帯びてきた。2023年ごろから一人1700万円位の旅費で高度100km超のサブオービタル飛行ができるようになる見通しである。

「Interop Tokyo 2019」

レポートが遅くなってしまったが「Interop Tokyo」「Connected Media Tokyo」「デジタルサイネージジャパン」「Location Business Japan」「アプリジャパン」の5つのイベントが、6月12日から14日まで幕張メッセで開催され、472社・団体が出展した。

会場には、多種多様なデジタルメディア・機器・システムが展示されていたが、ハイライトは、奈良テレビが出展したオールIP中継車、BOE ジャパンの8Kディスプレイ、東芝メモリーのVRであった。

奈良県の独立局として知られる奈良テ

レビは、今回、ソニーのIPライブ伝送技術「NMI（ネットワーク・メディア・インターフェイス）」を活用したライブ・プロダクション中継車（全長6.99m、全幅2.4m、全高3.31m）を出展した。車内を見せてもらったなら、ソニーのプロダクションスイッチャー「XVS-6000」、朋栄のマルチビューアー「MV4220」、ソニーのビデオサーバー「PWS-4500」、ファウエイのIPルーター「CE8850-32CQ-EI」、YAMAHAの音声卓「QL1」などが導入されていた。カメラについては、4Kカメラ最大10台まで増設が可能とのことであった。

BOE ジャパンは、ブースに98インチ8Kディスプレイを設置して、「世界で初めて2018年4月に、インターネットによる1対N、N対Nの8Kライブ中継、及びビデオオンデマンド配信に成功した」と語っていた。ブースでは、280Mbps以上のインターネット回線に接続して、世界どこでも活用できる同社特製の8Kデコードプレーヤも紹介された。BOE ジャパンは、これらの他にスタイリッシュな43インチ電子看板ディスプレイや「Viewtopia」と名付けたIoT映像配信システムも出展して注目を集めた。

8Kに関しては、ソニーも「8K時代の新たな空間模様」を謳った「8Kピクチャーウィンドウ」を披露していた。窓のないスペースでも屋外の風景を絵画のように楽しめるというのがウリである。6月12日発売で、「対応サイズは43・49・55・65・75・85の6種で、縦置きに4台使用する」とのことであった。

VRについては、東芝メモリーが、ハエの脳細胞を3Dで可視化した映像を「オキュラス Go」ヘッドセットで視聴させていた。また、コーンズテクノロジーがオランダのSensiks社が開発した「5感のVR体験ボックス」を設営して注目的になった。視覚、聴覚に加えて、6種の匂い、風、気温をすべて統合して体験できるのが特色である。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
120cmφ型

衛星通信超小型可搬アンテナ

Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社

http://www.bizsat.jp TEL : 03-5772-9125

Communications k.k.